

2025 年度

言語教育研究科

入学試験問題集

公開用

< 筆記試験 >

麗澤大学大学院

目 次

言語教育研究科＜日本語教育学専攻＞

2025 年度

修士課程／Ⅰ期	4
修士課程／Ⅱ期	8

＜備 考＞

・掲載入試年度：2025 年度

- ① 語学の基礎力を試す問題（日本語を第一言語とする方は英語の問題、外国人留学生は日本語か英語の問題を選択）
- ② 日本語教育学（目安として、日本語教育能力検定試験の範囲内）の基礎知識と理解力を試す問題

言語教育研究科
修士課程

日本語教育学専攻

2025 年度 麗澤大学大学院言語教育研究科

日本語教育学専攻修士課程 I 期

一般選抜 入学試験問題

I. 【選択問題：日本語を第一言語とする者は(A)に解答すること。日本語を第一言語としない者は、(A)または(B)からどちらかを選んで解答すること】

(A) 【選 択】

次の英文を読んで、下の問いに答えなさい。

<220words 程度の英文が入ります>

出典：Encyclopaedia Britannica サイトより一部改編

問い1. 下線部(1)について、絵文字はなぜ多くの人に用いられているのか、本文の内容に基づいて説明しなさい。

問い2. この文章に書かれているような機能を絵文字が果たしている例を具体的に考えて述べなさい。

(B) 【選 択】（日本語を第一言語としない者のみが選択できる問題）

以下の説明文を読んで、問い1から問い2の問題に答えなさい。

あなたは市役所で職員に以下のように言われました。

- (a) 「ハンコを押してください」
- (b) 「ハンコを押してもらってください」
- (c) 「ハンコを押してもいいですか」
- (d) 「ハンコを押してもらっていいですか」

問い1. 上の(a)～(d)のうち、「あなた(聞き手)がハンコを押す」ことを意味するのはどれですか。当てはまる選択肢のアルファベットを書き（1つとは限りません）、なぜ動詞「押す」の主語が聞き手（＝あなた）であると解釈できるのかを説明しなさい。当てはまるものが2つ以上ある場合は、それらがどのように異なるのかも説明しなさい。

問い2. 上の(a)～(d)のうち、「職員(話し手)がハンコを押す」ことを意味するのはどれですか。当てはまる選択肢のアルファベットを書き（1つとは限りません）、なぜ動詞「押す」の主語が話し手（＝職員）であると解釈できるのかを説明しなさい。当てはまるものが2つ以上ある場合は、それらがどのように異なるのかも説明しなさい。

II. 【全員が解答する問題】

次の事項のうち、3つを選び、具体例を挙げて説明しなさい。

名詞化 (nominalization)

母音の無声化

自動詞の受け身

コロケーション

隠喩 (メタファー) と換喩 (メトニミー)

学習ストラテジー

熟達度テストと到達度テスト

内発的動機と外発的動機

生活言語能力 (BICS) と学力言語能力 (CALP)

Ⅲ. 【全員が解答する問題】

次の(1)、(2)の問題に答えなさい（(1)、(2)両方とも解答すること）。

(1) 以下の文章の①～⑩の（ ）に入れるのに最も適当なものを、a～sのうちからそれぞれ1つ選びなさい。解答はすべて記号で答えなさい。同じ言葉は一度しか使えません。

外国語教授法に関しては、1950年代以降繰り返し練習をすることを重視する（①）が盛んに行われ、シラバスも文法を積み上げていく（②）が主流であったが、コミュニケーションができるようにならないことがわかり、コミュニケーション能力の育成を目的とした教授法である（③）の時代となった。しかし、正確さが身につけにくいなどの問題があり、コミュニケーションを中心にしながらも必要に応じて学習者の注意を言語形式に向けさせる（④）が提案された。

この背景にあるのは、まずは Schmidt（シュミット）の、第二言語習得が起こるためにはインプットが（⑤）されるだけでなく（⑥）が必要だという主張である。また、インターアクションを通して習得が起こるというインターアクション仮説では、インターアクションの過程でコミュニケーションに支障があったときに起こる（⑦）が習得を促進するとされた。誤りに対して暗示的に正用を提示するフィードバックである（⑧）が習得を促進することも主張されている。また、Swain（スウェイン）はインプットだけでなく、言語形式に注意を向けた（⑨）が必要だと主張した。近年は、タスクを中心とした教授法である（⑩）も注目されているが、その中でも必要に応じて言語形式への注意を促すことが提唱されている。

- | | | |
|-----------|-----------|-------------------|
| a. アウトプット | b. 訂正 | c. オーディオリンガル法 |
| d. リキャスト | e. 意味交渉 | f. 習慣形成 |
| g. 文法説明 | h. 気づき | i. フォーカス・オン・フォーム |
| j. 理解 | k. TPR | l. コミュニカティブ・アプローチ |
| m. 機能シラバス | n. 構造シラバス | o. プロンプト |
| p. CLIL | q. TBLT | r. フォーカス・オン・フォームズ |
| s. 明示的知識 | | |

(2) 母語話者と非母語話者（学習者）とがコミュニケーションする場面を「接触場面」と呼ぶ。接触場面では、非母語話者も母語話者もさまざまな工夫をしてなんとかコミュニケーションを成立させようと努力する。接触場面において、非母語話者と母語話者それぞれがどのような言語調整行動をとっているかそれぞれについて複数の例をあげなさい。

2025 年度 麗澤大学大学院言語教育研究科

日本語教育学専攻修士課程Ⅱ期

一般選抜 入学試験問題

I. 【選択問題：日本語を第一言語とする者は(A)に解答すること。日本語を第一言語としない者は、(A)または(B)からどちらかを選んで解答すること】

(A) 【選 択】

以下の英文を読み、下線で示した部分について以下の問いに答えなさい。

問い1. モン語(Hmong)の「自転車」を表す語はどのように作られましたか。

問い2. その作り方は、本文中に示されている新しい概念を語にする他の方法とどう違いますか。

<160words 程度の英文が入ります>

Blake, Barry J. (2008). *All about Language*. Oxford: Oxford University Press.

より一部改編

(B) 【選 択】(日本語を第一言語としない者のみが選択できる問題)
指示語の文脈指示の用法に関する問い1から問い2の問題に答えなさい。

問い1. 以下の会話(1)から(3)について、空欄に「この」「その」「あの」のうち、どの指示語が来るかを答えて、その理由も書きなさい。入る指示語は一つだけとは限りません。

(1) A:「国宝」という映画がヒットしていますね。()映画は賞をたくさん取ったんですね。

(2) B:昨日、「国宝」っていう映画を観たんですよ。とてもおもしろかったです。
C:()映画、どんな映画ですか?「国宝」の映画なんて面白いんですか?

(3) D:昨日、「国宝」っていう映画を観たんですよ。とてもおもしろかったです。
E:()映画、私も2回見ましたよ。

問い2. 以下はFとGが話している会話です。Fは日本語学習者、Gは日本語母語話者でFのチューターをしています。2人は前の週に一緒に映画を見に行きました。Gが下線部のように直した理由を説明しなさい。

*解答には、以下の用語を使うこと:対象 話し手 聞き手

G:先週は楽しかったですね。

F:ええ、その映画、おもしろかったですね。

G:そういう時は「あの映画面白かったですね」と言いますよ。

II. 【全員が解答する問題】

次の事項のうち、3つを選び、具体例を挙げて説明しなさい。

孤立語と膠着語

音節とモーラ

拘束形態素

否定のスコープ

助詞「は」の機能

素材敬語と対者敬語

語用論的転移

フォリナー・トーク

Ⅲ. 【全員が解答する問題】

次の(1)、(2)の問題に答えなさい（(1)、(2)両方とも解答すること）。

(1) 以下の文章の①～⑩の（ ）に入れるのに最も適当なものを、a～rのうちからそれぞれ1つ選びなさい。解答はすべて記号で答えなさい。同じ言葉は一度しか使えません。

外国語教育の分野では、学習者の誤用に対する考え方やその扱い方が大きく変わってきた。口頭での文型練習を重視する教授法である（ ① ）の時代には、誤りは正しい（ ② ）を阻害するとして排除すべきものと考えられていた。この時代は研究面でも（ ③ ）仮説が中心となり、誤用のほとんどは学習者の母語と目標言語との違いが原因になると考えられた。その後、教授法の中心がメッセージを伝達することに重点を置く（ ④ ）に移ると、誤用への考え方も変わってくる。研究面でも、学習者が作っていく独自の言語体系である（ ⑤ ）という観点から誤用が捉えられるようになる。また、誤用訂正も、誤りを排除するためではなく習得に必要な（ ⑥ ）を起こす訂正フィードバックとして捉えられるようになっていく。特に、コミュニケーションの流れを止めずに暗示的に正用を提示するフィードバックである（ ⑦ ）の効果が注目されている。ただし、このフィードバックは気づかれにくいという欠点があり、学習者が気づくかどうかには、一時的保持と処理の両方を担う（ ⑧ ）の容量が影響するとも言われている。さらに、クラッシュェンの（ ⑨ ）では不安が習得を阻害すると言われていることから、不安度の高い学生への訂正フィードバックには注意が必要である。また、意味理解に支障をきたさない誤用である（ ⑩ ）へのフィードバックについても現場では頭を悩ませるところである。

- | | | |
|-----------|---------------|-------------------|
| a. リキャスト | b. グローバル・エラー | c. ワーキングメモリー |
| d. プロンプト | e. 対照分析 | f. オーディオリンガル法 |
| g. 中間言語 | h. 習慣形成 | i. コミュニカティブ・アプローチ |
| j. 目標言語 | k. ナチュラルアプローチ | l. 情意フィルター仮説 |
| m. 気づき | n. インプット仮説 | o. ローカル・エラー |
| p. 中間言語分析 | q. インテイク | r. 問題 |

(2) 日本語教育におけるコースデザインの過程で実施される教育評価には、「診断的評価 (diagnostic assessment/diagnostic evaluation)」と「形成的評価 (formative assessment)」がある。それぞれの目的、実施時期、方法について、具体例を挙げながら説明しなさい。